慶應義塾大学ビジネス・スクール

キューバ危機（続）

10 月 24 日（水）続き

キューバに向かっていたソ連の不審な貨物船 2 隻は反転したが、随行していた 1 隻の潜水艦は封鎖海域の近くに残っている。

22：30　フルシチョフからケネディ宛の、次の主旨のメッセージが国務省に届いた。

「海上封鎖は海賊行為であり、米国が世界を核戦争の淵に追い込んだ。（そのほか米国に対するさまざまな非難を述べたうえで、）ソ連はミサイルを撤去するつもりはなく、米国の海上封鎖を尊重するつもりもない。米国が誰かに同じ要求を突きつけられたら、きっと拒否するだろう。だからソ連も否と答えるしかない。公海上における米国の海賊行為に対しては、自らの権利を守るのに必要かつ十分な対応策を取らざるをえないだろう。」

10 月 26 日（金）

米海軍はあやしくない貨物船を選んで接近し、積荷を尋ねて兵器でなければ、そのままキューバに向かわせた。したがってまだ 1 隻のソ連船にも乗り込んでいない。メディアからは海上封鎖の効果を疑う声が出始めた。

18：00　フルシチョフからケネディ宛のメッセージが、モスクワの米大使館を介して国務省に届いた。感情がこめられた長い文章で、フルシチョフ自身の手によるものと思われた。主旨は次の通りである。

「攻撃すればあなたがたは報いとして、我々に味わわせた痛みを、そっくりそのまま経験することになる。選挙が間近にあってもなくても、我々は興奮やくだらない激情に駆られてはならない。選挙は一時的なものですぐに済んでしまうが、戦争はいったん始まれば我々の力で止めることはできない。私は 2 つの戦争に参加した経験から知っている。戦争は都市や町や村を舐め尽くし、いたるところに死や破壊をもたらすまで、決して終わらない。もし米国が艦隊を呼び戻し、キューバを攻撃しないと約束するなら、ソ

本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学大学院経営管理研究科教授　大林厚臣によって作成された。
本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒 223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4 丁目 1 番 1 号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は http://www.kbs.keio.ac.jp/ へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 大林厚臣（2013 年 10 月作成）